

研究タイトル:

東アジアにおけるイエズス会士の活動とその影響について



氏名: 安部力 / ABE Tsutomu E-mail: abe@kct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 修士(文学)

所属学会・協会: 日本中国学会、東方学会

キーワード: 東アジア思想, カトリック・キリスト教, イエズス会, 徐光啓, 天学初函

 技術相談
 提供可能技術:

- ・中国カトリック・キリスト教史(特に徐光啓及びマテオ・リッチの活動について)
- ・天学初函の構成について
- ・韓国カトリック・キリスト教史(特に星湖学派について)
- ・台湾におけるカトリック・キリスト教の現状と信者の宗教意識について

研究内容: イエズス会士がもたらしたものと中国(明末清初期)人士大夫の受容と理解について

1: 現在の研究課題は 16 世紀末に東アジアへ到来したイエズス会士の活動に始まる、キリスト教思想の影響に関する考察するである。特に、その活動過程の一つの精華である『天学初函』を中心に、そこに見られる「(西洋的)キリスト教概念」がどのように紹介され、また理解・受容されていったのかについて分析している。同時に、彼らの活動が結果として所謂「典礼問題」につながり、イエズス会士が中国での活動を停止させられることとなった原因についても考察を行う。これは現代の東アジアにおけるキリスト教の状況や「西洋(欧米)的概念」に対して、今後、東アジア地域でどのような対応が予想され、また可能なのかを考える上で好個の事例となるからである。

2: 上記テーマに関係する先行研究の主たる対象はそれぞれ(日本、中国、韓国(朝鮮半島))における各地域個別の活動であり、イエズス会士が活動を行った、東アジア全体を見渡した上での研究は皆無であるというのが現状である。この点について、大きな問題意識としては、「西洋的価値観」と「東洋的価値観」における共通性(共有・受容)と差異性(衝突・排除)にあるため、俯瞰的な視点を持つことが必要であると考えている。それは当時の東アジアにおいて、イエズス会士は巡察使であるヴァリニャー二等の指導の下に活動を行っており、それぞれの地域の实情に根ざした布教を試みていたことを考え合わせれば、俯瞰的視点と個別的視点の両者を意識した研究視点が要請されると考えているからである。

このように 16 世紀当時の東アジアにおけるイエズス会士を取り巻く状況が以上の様であると考えた場合、従来の研究では、対象が個別的視点に限定されていた感は否めない。この状況を見据えた上で、各地域相互の連関性を考慮に入れつつ、それぞれの地域における「反応」の特色、独自性を比較し、浮き彫りにすることを計画している。その結果、「キリスト教思想」という異文化に対する反応の「差異点」と「共通点」が明らかになり、それがすなわち各地域の独自性と東アジアの共通性に繋がってくるのではないかと考えるからである。

3: 上述のような研究状況と問題意識の下、『天学初函』を始めとする、明末清初の中国で出版された漢訳西学書を中心に、まずはそれらが思想文化的基盤として背後に持っている「価値体系」を明らかにする。その上で、東アジアでそれらがどのように受け止められたのか、その状況を分析し、当時の実情を浮かび上がらせたい。そして、最終的に典礼問題が発生し、イエズス会士が国外追放となる原因がどこに胚胎していたのかについて明示できれば、と考えている。

4: 従来の主たる研究対象は、イエズス会が到来した明朝末期から清朝中期であるが、本件では現代的課題も研究の視野に入れている。また、東アジア地域全体を俯瞰しながら、各地域相互の比較を、『天学初函』への対応という基準により考察することで、従来の手法では見えにくかった東アジア地域の共通性と差異性を明らかにできる、という特長を持っている。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
なし	